

～旧約聖書を読んで感じること～ (59) 逃亡者 ダビデ

ダビデは身一つでサウルの町ギブアからサムエルのもとへ逃れました。サウルは各地に遣わしていた使者により、居所を知り、追手を送り、自身もやって来ました。ところがサムエルのもとで、預言状態になり、サウルも着物を脱ぎ棄て、一昼夜、サムエルの前に裸で倒れていました。その間にダビデは逃げました。なぜサウルに狙われるのか全く理解できませんでした。



アヒメレク、ゴリアトの剣を与える Aert de Gelder

ダビデはノブの祭司アヒメレクを訪ねました。アヒメレクは隊長であるダビデが一人でやって来たのを訝しく思いましたが、ダビデは王命による隠密の任務と嘘をつき、食べ物をもとめました。アヒメレクは普通のパンがなかったため「女を遠ざけているなら」といって聖別されたパンを与えました。更にダビデは「槍か剣がありますか」と尋ねました。神殿にあるはずもないものです。けれども幸いエラの谷でダビデが討ち取ったゴリアトの剣が布にくるんで置いてあったのです。ダビデはそれを受け取り、逃れて行きました。そ

こには偶然サウルの家臣ドエグがおり、すべてを見ていたのです。

ダビデはガトのアキシュ王の下へ逃れていきました。アキシュの家臣はダビデを、「かの地の王」と告げたのでアキシュに捕えられました。ダビデは恐れ、痴人のふりをして、難を逃れ、アドラムまで再び逃げました。そこへ彼の兄弟、両親も逃げて来ました。その他にも困窮している者、負債のある者、不満を持つ者などが集まり、400人ほどの集団になってしまいました。ダビデはモアブへ拠点を移し、モアブ王に両親を預かってもらいました。

やがてアヒメレクがダビデに食糧、剣を与えたことをサウルは知り、アヒメレク一族、ノブの町を剣にかけて滅ぼしました。アビアタルという息子が一人生き残り、ダビデのもとへ逃げて来ました。ダビデは自分の責任を痛感しました。やがてケイラの地がペリシテ人に襲われたため、ダビデはケイラに向かい、ペリシテ軍と戦い、大打撃を与えました。それを知ったサウルはケイラに向かいダビデを討とうとします。ダビデは必死で祈りながら、ケイラを去り、ジフの荒野、マオンの荒野、エン・ゲディと彷徨って行きます。サウル軍と遭遇した時、ダビデは絶好のチャンスがあってもサウルを襲うことはありませんでした。それを知ってサウルはダビデに「帰って来い」と言いますが、ダビデはサウルに殺されることを確信し、とうとうサウルの敵、ペリシテの地へ逃げる事にしました。

ガトのアキシュ王に頼み、ツイクラグに住むことを許されました。サウルはダビデを討つことを断念しました。ダビデはペリシテの地に1年4か月住みました。ダビデはその地方の他民族を襲い、証拠がのこらないようにすべてを殺し尽くし、アキシュ王にはユダの地方を襲ったと報告しました。アキシュはダビデを信じた。やがてペリシテ人はサウル軍と戦うために集結しました。アキシュはダビデにも戦闘に加わるように命じますが、ペリシテの武将たちはダビデが裏切ることを恐れてダビデに参戦させないように主張します。ダビデはペリシテから離脱し、ツイクラグに戻ると、そこはアマレク人に襲われ、皆奪われていました。ダビデは追撃し、奪い返し、報復しました。戦利品をすべての兵に平等に分配し、ユダの長老たちにも献上したので、すべての民に喜ばれました。一方ギルボア山の戦闘で、サウル王は討たれて自死し、イスラエルはペリシテの前に敗れました。

